

6 説明的文章1 要約する

組	
番号	
氏名	

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

比較的新しい地質時代に日本とアジア大陸とは陸続きになっていて、象や犀サイの先祖が大陸からの徒歩旅行の果に、東端の日本の土地に到着し、現在の吾々の住まっているここあたりをうろついていたということは地質学者の研究によって明らかになった事実である。しかしその頃既に人間の先祖が象と一緒に歩いていたかどうかはよく分らない。それはとにかく、日本が大陸から千切れて島国になっても、船というものを造ることに成功した人間は、永い間に、何遍なんべんとなくそうして色々な方面から日本の国に渡って来たであろう。それと同時に多種多様な民族の色々な文化の流れがこの極東の細長い島国の中に合流こんりゅうし集注したであろう。従って我等の国語にはあらゆる民族の言語が混淆こんりゅうし融合してしまって、今となっては容易に分析することが出来ないようになってしまっているように思われる。我等の同胞の顔貌がんぼうの中にはまたあらゆる人種の定型がそれぞれに標本的に洩もれなく代表されているようである。

日本人が真に日本の土の中から生れ、日本の言語が全く独立に発生したと考えるのは、子こが水から発生すると考えるよりも一層非科学的である。同様に例えば日本の短歌の詩形が日本で始めて発生したものと速断するのも所由いわれのないことであろうと思う。

五七五七七七という音数律そのままのものは勿論もちろん現在では日本特有のものであるが、この詩形の遠い先祖となるべきものが必ず何処どこかにあったであろうと想像し、その同じ先祖から出た他の家族が何処どこかにありはしなかったかと想像するのはそれほど唐突な空想とは思われない。

(寺田寅彦「短歌の詩形」から)

例

問い「日本の言語」の発生についての筆者の考えを、「多種多様な民族」、「日本の言語」、「日本の短歌の詩形」という言葉を必ず用いて、二百五十字から三百字程度で要約しなさい。

		の	は	処	形	は	で	五	る	日	ら	し	こ	に	に	日
		で	、	か	の	じ	は	七	の	本	ゆ	た	の	多	渡	本
		あ	そ	に	遠	め	日	七	は	の	る	で	極	種	っ	人
		る	れ	あ	い	て	本	と	、	言	民	あ	東	多	て	の
		。	ほ	っ	先	発	特	い	非	語	族	ろ	の	様	来	祖
			ど	た	祖	生	有	う	科	が	の	う	細	な	た	先
			唐	で	と	し	の	日	学	全	言	。	長	民	の	は
			突	あ	な	た	も	本	的	く	語	従	い	族	で	色
			な	ろ	る	も	の	の	で	独	が	っ	島	の	あ	々
			空	う	べ	の	で	短	あ	立	混	て	国	色	ろ	な
			想	、	き	で	あ	歌	る	に	淆	我	の	々	う	方
			と	と	も	は	ろ	の	。	発	し	等	中	な	が	面
3	0		は	想	の	な	う	詩	同	生	融	の	に	文	、	か
			思	像	が	く	が	型	様	し	合	国	合	化	そ	ら
			わ	す	、	、	、	も	に	た	し	語	流	の	れ	日
			れ	る	必	こ	日	、	、	と	て	に	し	流	と	本
			な	こ	ず	の	本	現	五	考	お	は	集	れ	同	の
			い	と	何	詩	で	在	七	え	り	あ	注	が	時	国